



Japan Foundation for  
Regional Art-Activities

# 地域創造レター

10月号—No.341  
2023.9.25  
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【オックス・ブラッド】雄牛の血のような暗赤色。

革靴などの色として一般的に使用されている色名。日本語の「赤」が火や日に由来する色名であるのに対し、血を魔除けや神聖なものにとらえる文化があるところでは、オックス・ブラッド、ルージュ・ドウ・サン(血の赤という意味)のように血に由来する色名がある。

## ●目次 / contents

今月のニュース..... 2

令和5年度「市町村立美術館活性化事業」スタート

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ岡山セッション開催のお知らせ

地域創造発行物のご案内

「特別寄稿 ビューポイント view point」No.13掲載について

令和5年度「リージョナルシアター事業」スタート

今月の情報..... 6

地域通信 / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

福井県大野市 COCONOアートプレイス

ウィギーカンパニー版画展「DAPPI(脱皮)」

●令和5年度「市町村立美術館活性化事業」

# 「うるおうアジア—近代アジアの芸術、その多様性—」展を開催

## 令和5年度 市町村立美術館 活性化事業 スタート



写真  
1: 展覧会会場の様子(はつかいち美術ギャラリー)  
2: 「二胡ギャラリーコンサート」(四日市市文化会館)  
3: 《リキシャ》ラジ・クマール・ダス(絵)、ガッファール工房(車体製作) (四日市市文化会館)  
4: エントランスの様子 《最良のものはすでにある》プー・ホァ(ト樺) (はつかいち美術ギャラリー)

●令和4・5年度市町村立美術館活性化事業 第23回共同巡回展 福岡アジア美術館蔵「うるおうアジア—近代アジアの芸術、その多様性—」

- はつかいち美術ギャラリー (広島県廿日市市) 5月12日～6月25日
- 四日市市文化会館(三重県四日市市) 7月8日～9月3日
- 上田市立美術館(長野県上田市) 9月16日～11月19日
- 小金井市立はけの森美術館(東京都小金井市) 12月2日～2024年1月28日

[主催] 第23回共同巡回展実行委員会、各開催館ほか  
[特別協力] 福岡アジア美術館 [アドバイザー] ラウンチャイケン寿子(福岡アジア美術館学芸員) 柏尾沙織(福岡アジア美術館資料管理)

●市町村立美術館活性化事業に関する問い合わせ  
総務部 三田・管藤  
Tel. 03-5573-4184

「市町村立美術館活性化事業(市美活)」の23回目となる巡回展「うるおうアジア—近代アジアの芸術、その多様性—」が、全国を巡回中です。本展は、福岡アジア美術館のコレクションの中からアジアの近代美術の作品を中心にご紹介しています。5月にはつかいち美術ギャラリーで開幕し、四日市市文化会館へ巡回、現在は上田市立美術館にて開催中です。また、上田市立美術館の後は、小金井市立はけの森美術館へ巡回します。

今回は、展覧会内容がどのように検討されていったのか、「企画検討会議」の様子と併せて、展覧会の内容、はつかいち美術ギャラリーと四日市市文化会館で開催された地域交流プログラムをご紹介します。

### ●展覧会内容が決まるまで(企画検討会議の様子)

これまで市美活では、絵画、彫刻、工芸、写真などさまざまなジャンルでの展覧会を実施してきましたが、アジア美術の展覧会は初めての試みでした。

西洋美術と比べるとアジアの美術は、なか

なか鑑賞の機会も少ないため、1回目の会議ではアドバイザーである福岡アジア美術館(以下、「あじび」)のラウンチャイケン寿子学芸員から、コレクションの概要や、成り立ち等をレクチャーしてもらいました。

あじびは、アジアの近現代の美術作品を系統的に収集し展示する世界に唯一の美術館で、アジア23カ国・地域の、多様なジャンルの作品を網羅する約4,500点(2022年現在)を収蔵しています。コレクションの中に、「美術家」以外の人々による大衆芸術や民俗芸術、民族芸術も含まれていることが特徴のひとつです。

レクチャー後は、各館の参加の動機や、展覧会の希望を話し合いました。小金井市立はけの森美術館から、顕彰している画家・中村研一がアジア各地に渡っていることから、近代のアジア美術に触れる内容を入れたいという希望や、はつかいち美術ギャラリーと四日市市文化会館からは、地域の中でアジアにルーツをもつ外国籍住民も多いので、多文化共生について考えられる機会にしたいという意見がありました。

市美活に参加する美術館は全国からの応募で決まるため、初対面同士のことも多く、その状態から展覧会をつくり上げていくこととなります。それぞれの館の希望をまとめ上げる困難さに加え、今回は各館の展示スペースの広さに大きな差があるというハードルもありました。ZOOM会議や、各参加館での会議にて、課題を一つずつ検討し、今回の巡回展では、いわゆる「近代美術」と大衆芸術などの「周縁の芸術」とも呼べるポスター、輸出用絵画などの作品群をシームレスに展示することで美術の概念や価値観などに対する多様な視点と奥深さを提示するという方向性に決まりました。

### ●大衆芸術から近代美術まで多様な美術を紹介

本展は「洋風表現の登場 西洋との交易によって」「民衆に愛されるアート ポスターとグラフィック・アート」「『近代美術』と呼ばれるもの」の3章構成で、中国やインドなどの15の国と地域の近代作品を中心とした約70点の作品を出展しています。日常に密接した商業ポスターや、輸出用につくられた中国やインドの絵画の作品群に加え、近代の美術作品として、フランス式の近代美術が流入して生まれたベトナムのグエン・ファン・チャンの絹絵や、横浜出身ながらインドネシアで写真館を営みながら油彩画家として活動したモリ・キンセン(森錦線)の作品、彫刻や写真作品も展示されています。

出展作品の中で、華やかさと大きさでひときわ目を引くのがバングラデシュのリキシャです。日本の人力車がルーツのリキシャは、現在もバングラデシュの首都ダッカで主要な交通手段となっているそうです。リキシャは、厳密に言うと現代の作品という分類になりますが、「ぜひ市民の方々に見てもらいたい!」という参加館学芸員の強い思いで展示することになりました。専門の職人がビニールシートなどで装飾したリキシャの車体本体とともに、後背部に取り付けられるブリキのプレートの絵画も出品されています。

はつかいち美術ギャラリーで本展を鑑賞さ

れた方からは、「なかなか見る機会が少ないアジア美術なので初めてみた」という声や、「インド、中国、バングラデシュ、各々の国の庶民の美術が生き生きとしている」と感想をいただきました。

### ●アジアの文化を取り入れた地域交流プログラム

また、会期中に開催された地域交流プログラムは、食や音楽等、美術だけではなくアジアの文化を広く紹介するバラエティ豊かな企画です。

はつかいち美術ギャラリーでは、本場中国の茶葉でジャスミン茶を味わうイベントや、展示室内の作品に囲まれた中でアジアの昔話を聞く「夕暮れギャラリートーク&アジアの昔話の語り」(はつかいち市民図書館協力)などが開催されました。

四日市市文化会館では、地元三重の出身で楽器史家・ピアノ調律師の木村チェンバ郎さんによる「アジアの絵画から観た音楽と楽器」をテーマとしたセミナーのほか、ギャラリーコンサートとして、中国の民族楽器である二胡の演奏や、新日本フィルハーモニー交響楽団に、アジアや本展をテーマに選曲してもらったオリジナルのプログラムによるコンサートも開催されました。

現在開催中の上田市立美術館での展覧会は11月19日まで。その後、小金井市立はげの森美術館へと巡回し、12月2日～2024年1月28日まで開催されます。ぜひお近くの会場へ足をお運びください。

また、令和6・7年度市町村立美術館活性化事業「北海道立釧路芸術館所蔵 水からはじまるアート」展の参加館を現在募集しています(11月30日締切)。「水からはじまるアート」と題した本展では、「水」をテーマに、北海道立釧路芸術館のコレクションの中から展覧会を開催します。ご応募をお待ちしています。

●令和6・7年度市町村立美術館活性化事業の募集については実施要綱をご確認ください。当財団ホームページからダウンロードできます。  
<https://www.jafra.or.jp/project/visual-art/01.html#boshu>

## 財団からのお知らせ

### ●ステージラボ岡山セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象として、事業の企画制作、施設運営、地域との関わりなど、ホール、劇場等のソフト面の運営に欠くことのできない要素を体得するため、ワークショップ等体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。令和5年度の後期セッションは、岡山芸術創造劇場ハレノワにて2コースで開催します。

詳細や参加者募集は、次号の地域創造レターおよび当財団ホームページでお知らせします。

#### ◎ステージラボ岡山セッション概要

【日程】2024年2月6日(火)～9日(金)

【会場】岡山芸術創造劇場ハレノワ

(岡山市北区表町3-11-50)

【開講コース(予定)と対象となる職員の目安】

#### ●ホール入門コース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公共ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

#### ●自主事業コース

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公共ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

### ●地域創造発行物のご案内

文化・芸術を通じた地域づくりの事例を紹介する雑誌『地域創造』のバックナンバーや、地域創造レターで長年にわたって連載してきた制作基礎知識シリーズを中心にまとめたハンドブック『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』などは、地域創造のホームページから入手が可能です。

\*入手方法はこちらからご確認ください。

<https://www.jafra.or.jp/library/nyushu/application/>



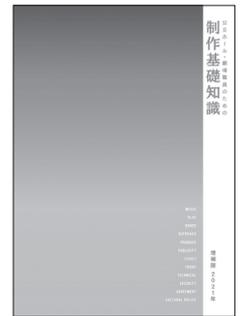
『地域創造』第48号  
特集：ニューオープン/育成環境を考える



『地域創造』第47号  
特集：レジデンス再考/well-being (よりよく生きる)



『地域創造』第46号  
特集：コロナ時代/暮らしとアート



『公立ホール・劇場職員のための制作基礎知識 増補版 2021年』

### ●「特別寄稿 ビューポイント view point」No.13 掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。

13回目となる今回は中村政人氏(アーティスト、東京藝術大学絵画科教授・副学長、東京ビエンナーレ総合ディレクター、3331ディ

レクター)にご寄稿いただきました(9月23日更新)。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/column13.html>

#### ◎問い合わせ

芸術環境部 林

Tel. 03-5573-4093



●「ステージラボ」に関する問い合わせ  
芸術環境部 田之頭・藤原  
Tel. 03-5573-4068

●地域創造発行物に関する問い合わせ  
芸術環境部 管藤  
Tel. 03-5573-4066

## ▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

### ●令和5年度「リージョナルシアター事業」がスタート

演出家等を公共ホール等に派遣し、ホール職員等と共にアウトリーチやワークショップを企画・実施するリージョナルシアター事業。この事業では、演劇の幅広い可能性について、ホール職員等の理解を深め、演劇の手法を用いて地域活性化の試みを後押しすることを目的としています。今年度は5団体が参加し、まちの規模もミッションもさまざまな中で、担当者が派遣アーティストと対話を重ねながら企画した事業が、順次スタートしました。

茨城県茨城町では、さまざまなイベント・式典や市民活動の場として利用されてきた町立中央公民館大ホールが、約50年の役目を終え今年度解体され、新たな文化的施設が建設されることに伴い、思いを馳せながら大ホール内と周辺で、まち歩きワークショップを行いました。小学1年生から70歳代まで幅広い世代の参加者が3グループに分かれ、気になった場所や気に入った場所の写真を撮り、印刷した写真にそれぞれが思い思いに文字やイラストを描き加えていきました。壁に塗られたペンキから人が描かれたり、消火設備からお弁当が出来たりと、いつもとは違う視点やものの見方で面白い発見をして参加者の方々の想像力や表現力が発揮された作品が出来上がりました。参加者からは解体される大ホールに対し、発表会や町民祭でお世話になり「今までありがとう」と思い出の場所として振り返るとともに、新たな文化的施設への期待が膨らむ声が挙がるなど、ホールのこれからの繋がる内容となりました。

京都市(ロームシアター京都)では、これまであまりアプローチできていなかった、高齢者を対象としたワークショップを実施しました。地域の高齢者の交流の場や就労活動の場をつくるNPO法人ともつくのアウトリーチでは、アットホームな空間を活かし、緩やかな雰囲気の中でワークショップが始まりました。「京都でおすすめの癒される場所」

を寸劇で再現するワークでは、名所から穴場までさまざまなスポットが提案され、参加者自身の思い出を基にしたストーリーが演じられました。最後はそれぞれの20代の頃のお話を伺い、当時の自分に一言メッセージを書いて発表していただくワークで締めくくりました。NPO法人ともつくの担当者からは「参加者のこれまで知らなかった一面を見ることができた。最後のメッセージの場面では胸が熱くなった」とお話をいただきました。

ホールの担当者からは「アーティストの多田さんやアシスタントの方々が、参加者の雰囲気や人柄を見て臨機応変に対応してくれていたのが良かった。このような外に出向いていく事業を今後も続けていきたい」といった声が上がリ、今後ホールが独自で事業を継続していくための新たな繋がりも出来ました。

青森県八戸市(八戸市南郷文化ホール)では、市内や隣市の高校生を対象に交流を目指して演劇体験ワークショップを実施しました。舞台、客席、ロビーを使い3チームに分かれ、アーティストが準備したテキストを基に演出を考え、発表を行いました。初めのうちは他校の生徒に戸惑いを見せる参加者でしたが、次第に緊張がほぐれ交流を深める場面もあつ、アーティストから「想像すること、表現すること、共有すること」の難しさなどの説明を受け、チームが一丸となって作品制作に取り組んでいました。

発表では、音響や照明のほか、各チームそれぞれの会場の特色を活かした演出を行い、同じテキストでも演出によって見え方が変わってくることを知り、いつもとは違う新たな視野での作品づくりが行われました。

その他の地域でも、ホールの活用や商店街と連携した取り組みなどが実施されますので、興味のある方はぜひご視察ください。

- 令和5年度リージョナルシアター事業(参加団体/派遣アーティスト)
- 青森県八戸市(八戸市・(株)アート&コミュニティ/ごまのはえ)
- 茨城県日立市((公財)日立市民科学文化財団/福田修志)
- 茨城県茨城町(茨城町/有門正太郎)
- 東京都狛江市(狛江市/田上豊)
- 京都府京都市((公財)京都市音楽芸術文化振興財団/多田淳之介)

#### ○アドバイザー

- 内藤裕敬(劇作家・演出家、南河内万歳一座座長)
- 岩崎正裕(劇作家・演出家、劇団太陽族代表)

#### ○派遣アーティスト情報



[https://www.jafra.or.jp/system/artists/index?genre=301&registered\\_year=2019](https://www.jafra.or.jp/system/artists/index?genre=301&registered_year=2019)

#### ○問い合わせ

芸術環境部 栗林・石本  
Tel. 03-5573-4124

#### 写真

- 1: 茨城県茨城町で実施した「まち歩きワークショップ」の様子
- 2: ともつくカフェ(京都市)で実施したワークショップの様子
- 3: 八戸市南郷文化ホール(青森県八戸市)で実施した「演劇体験ワークショップ」の様子



## 地域通信

●地域通信欄掲載情報について  
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方  
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック  
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島  
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川  
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知  
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山  
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知  
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先  
ファックス、電話、e-mailでお願いします。  
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp  
地域創造情報担当 林・管藤

●2023年12月号情報締切  
10月25日(水)

●2023年12月号掲載対象情報  
2023年12月～24年3月に開催もしくは募集されるもの

### 北海道・東北

#### ●札幌市

本郷新記念札幌彫刻美術館  
〒064-0954 札幌市中央区宮の森4条12丁目  
Tel. 011-642-5709 梅村尚幸  
<http://www.hongoshin-smos.jp/>

#### 生命体の存在

北海道にゆかりのある作家の中から、陶やガラス、ジュエリー、繊維など生活に根差した素材・技法を用いたユニークな彫刻を制作している8名をセレクト。彼らの作品から醸し出される得も言われぬ生命感に着目し、彫刻表現の多様性とその可能性を探る。会期中はアーティストトークや、学芸員による本展の企画秘話を紹介するトークイベントを実施。

[日程]9月16日～12月17日  
[会場]本郷新記念札幌彫刻美術館



前田明日美「SURROUND 纏う」纏わる(2022年)

#### ●青森県十和田市

十和田市現代美術館  
〒034-0082 十和田市西二番町10-9  
Tel. 0176-20-1127 見留さやか  
<https://towadaartcenter.com/exhibitions/liu-jianhua/>

#### 劉建華 中空を注ぐ

上海を拠点に活動する劉建華(リュウ・ジェンホァ)の日本初の個展。磁器工房での職人時代を経て彫刻を学んだ劉は、経済、社会の変化や、それに伴う問題をテーマに、土や石、ガラス、陶磁器を用いた作品やインスタレーションを制作している。

今回は劉が2001年から22年の21年間で制作した磁器による6作品を展示。期間中はアーティストトークや企画展示ギャラリートークも実施。

[日程]6月24日～11月19日  
[会場]十和田市現代美術館



「中空を注ぐ」展示風景 撮影:小山田邦哉

#### ●青森県八戸市

八戸市美術館  
〒031-0031 八戸市大字番町10-4  
Tel. 0178-45-8338 齊藤未来  
<https://hachinohe-art-museum.jp/>

#### コレクションラボ005

#### 奏でる工芸

当館のコレクションがもつ魅力や可能性を探り、特徴的な内容を企画するコレクションラボ。今回は「音」をテーマに工芸作品を紹介。展示作品からリズムやオノマトペを感じることで、新たな魅力を探る。また、実際に作品を見ながら音を鳴らす創作体験ができるワークショップも開催される。できた音は展示室で聴くことができ、視覚だけでなく聴覚でも楽しむことができる企画となっている。

[日程]9月9日～12月18日  
[会場]八戸市美術館

#### ●山形県鶴岡市

荘銀タクト鶴岡  
〒997-0035 鶴岡市市場町11-61  
Tel. 0235-24-5188 伊藤玲子  
<https://tact-tsuruoka.jp/>

#### TACTおとアート2023

市民サポーターとして登録のある地元を拠点に活動するアー

ティストが一堂に会するイベント。開館5周年となる今年、初めて有観客で開催される。演奏やダンスパフォーマンス、作品展示、ワークショップなどを、ホールだけでなくロビーや屋外に簡易ステージを設置するなど、敷地のすべてを使ってアートが集う公園になる。また、ユネスコ食文化創造都市・鶴岡として、アートと食を結び、鶴岡の芸術文化と食の魅力も発信する。

[日程]10月15日  
[会場]荘銀タクト鶴岡

### 関東

#### ●茨城県水戸市

水戸芸術館  
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8  
Tel. 029-227-8111 中山秀樹  
<https://www.arttowermito.or.jp/gallery/>

#### 水戸市民会館開館記念「公共建築はみんなの家である」展 住民たちがみた公共建築

7月2日に開館した水戸市民会館を設計した伊東豊雄の展覧会。同館の他に、伊東がこれまでに設計を手掛けた代表的な公共建築の中から、せんだいメディアテーク(2001年)など全5施設に関する資料などを展示。それぞれの施設利用者の声や建築に携わった人々の思いも紹介するとともに、市民会館の設計に伊東が込めた想いを伝え、今日の公共建築の意義とこれからのあるべき姿を考察する。

[日程]7月2日～10月9日  
[会場]水戸市民会館



水戸市民会館 やぐら広場 撮影:中村絵

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

### ●栃木県足利市

足利市立美術館

〒326-0814 足利市通2-14-7

Tel. 0284-43-3131 清水

<http://www.watv.ne.jp/ashi-bi/>

#### 色彩散歩—Promenade In Color—コレクション展2023

「色彩」をテーマに、足利市立美術館が所蔵する作品の中から、23名の作家による絵画、立体、写真など約110点を展示する。関連企画として、辞書をかたどったオブジェをつくるさいとううらら、岩絵具と銀箔により花をめぐる景色を描く福山知佐子、鮮血のような赤色が目を奪う作品をつくる落合京の3人によるシリーズ個展「色彩の手ざわり」を開催。

[日程] 8月26日～10月22日

[会場] 足利市立美術館

### ●群馬県前橋市

萩原朔太郎記念・水と緑と詩の  
まち 前橋文学館

〒371-0022 前橋市千代田町  
3-12-10

Tel. 027-235-8011 柳田

<https://www.maebashibungakukan.jp/>

#### 朔太郎を刺繍す ティム・サトミ

刺繍作家のティム・サトミは前橋文学館で開催した「詩集『月に吠える』100年記念」展(2017年)、「サクタロウをアートする」展(2018年)において「朔太郎を刺繍す」シリーズを発表し、今年、シリーズ18作品を前橋文学館へ寄贈した。本展では、これらの作品とともに、モチーフとなった朔太郎の詩に関する自筆原稿や著書、雑誌などを併せて公開



ティム・サトミ「朔太郎を刺繍す」シリーズより「青猫」(部分/2010年)

し、「アートとことば」が織りなす特別な空間を楽しめる。

[日程] 9月23日～12月24日

[会場] 萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館

### ●埼玉県川越市

川越市立美術館

〒350-0053 川越市郭町2-30-1

Tel. 049-228-8080 濱田千里

<https://www.city.kawagoe.saitama.jp/artmuseum/>

#### 〈川越の美術家たち〉 中村一美展

抽象的な絵画を色鮮やかに描き、国内外を問わず活躍する中村一美(1956～)の個展を、かつて20年以上居住していたゆかりの地・川越で開催。中村は、一つのテーマに沿った原型から作品を描いている。本展では、〈存在の鳥〉〈破庵〉〈聖〉という3つの作品シリーズから近作および新作を紹介。関連企画としてアーティストトークや本人を招いたトークイベントなども開催。

[日程] 10月21日～12月10日

[会場] 川越市立美術館

### ●千葉県浦安市

J:COM浦安音楽ホール

〒279-0012 浦安市入船1-6-1

Tel. 047-382-3035 嶋田

<https://www.urayasu-concerthall.jp/>

#### 親子で楽しむワンコインコンサート Vol.17「シーサイド・プラス・クインテット」

未就学児入場OKのワンコインコンサート。2018年からスタートし、年間3回程度開催している。出演者も、ピアノやジャズアンサンブルなど毎回さまざま。11月公演は金管五重奏の華やかな音色を楽しめるコンサートを開催。企業協賛により、より多くの人に音楽鑑賞の機会を提供する社会活動の一環として、浦安市内のひとり親家庭無料招待枠を各回で設けている。

[日程] 11月25日

[会場] J:COM浦安音楽ホール

### ●東京都港区

東京都庭園美術館

〒108-0071 港区白金台5-21-9

Tel. 050-5541-8600 大木香奈

<https://www.teien-art-museum.ne.jp/>

#### 装飾の庭 朝香宮邸のアール・ デコと庭園芸術

開館40周年を記念し、アール・デコ時代の「庭園芸術」を特集する日本初の展覧会。旧朝香宮邸を活用した当美術館は国の重要文化財にも指定されている。本展では、両大戦間期のフランスの近代庭園をめぐる動向に着目し、古典主義・エキゾティシズム・キュビズムの要素を取り入れて展開していった様について、絵画や彫刻、工芸、版画、写真、文献資料等約120点の作品から紹介する。

[日程] 9月23日～12月10日

[会場] 東京都庭園美術館

### ●東京都調布市

調布市せんがわ劇場

〒182-0002 調布市仙川町1-  
21-5

Tel. 03-3300-0611 萩原

<https://www.chofu-culture-community.org/sengawa-theater>

#### 市民参加演劇公演2023 「人魚姫裁判」

2009年から開催する、市民が主役となってつくり上げる演劇プログラム。市民が劇場や舞台芸術を身近に感じるきっかけであると同時に、多世代交流の場にもなっている。「お試しワークショップ」も開催しており、気軽に演劇に参加できる取り組みも。今年度は「人魚姫」を現代の法廷劇に仕立て、おとぎ話を通して現実世界を見つめ直すオリジナル作品を上演する。

[日程] 10月14日、15日

[会場] 調布市せんがわ劇場

### ●神奈川県藤沢市

藤沢市アートスペース

〒251-0041 藤沢市辻堂神台

2-2-2 ココテラス湘南6F

Tel. 0466-30-1816 鎌田さつき

<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/bunka/FAS/index.html>

#### Artists in FAS 2023 入選アー ティストによる成果発表展

藤沢市アートスペースでは、多様な創作活動に携わるアーティストたちに、制作の場と発表の機会を提供するアーティスト・イン・レジデンスプログラムを実施している。8回目となる今回は、国内外から74件の応募があり、6月に行われた審査会にて4名を選出。アーティストたちはアートスペース近隣をリサーチした内容を軸に、来場者が見学可能なオープンスタジオとなっている館内のレジデンスルームにて滞在制作。本展で完成作品が披露される。

[日程] 10月21日～1月14日

[会場] 藤沢市アートスペース、ココテラス湘南ビル内共用スペース

### ●神奈川県葉山町

神奈川県立近代美術館

〒240-0111 三浦郡葉山町一  
色2208-1

Tel. 046-875-2800 三本松・西澤

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp/>

#### 100年前の未来：移動するモダ ニズム 1920-1930

神奈川県立近代美術館 葉山館の開館20周年を記念し、「近代(モダン)」の文化が多様に展開した20世紀の20年代(1920～30)を再考する展覧会。99年に旧鎌倉館で開催して以来となる久米民十郎の特集展示、日本人作家が20年代に海外で制作した作品のほか、評論家らが招来した海外作品や訪日作家の作品を紹介し、文化往来から同時代性を探る。日本で学んだこともある魯迅が中国で展開した近

代木版画運動の最初期作品は見どころのひとつ。

[日程] 10月7日～1月28日

[会場] 神奈川県立近代美術館 葉山

## 北陸・中部

### ●新潟県長岡市

長岡市芸術文化振興財団  
〒940-2108 長岡市千秋3-1356-6 (長岡リリックホール内)  
Tel. 0258-29-7715 佐藤  
<https://www.nagaoka-caf.or.jp/>

### オペラ『長岡物語』

長岡市立劇場の開館50周年を記念して、長岡にゆかりのあるキャストによる市民創作オペラを上演する。長岡藩の重臣・河井継之助の半生を第11代藩主・牧野忠恭の視点で展開する物語で、演奏は、長岡物語アンサンブル、長岡少年少女合唱団と、地元力を結集した長岡づくしの作品。10月2日・3日には、公演に先駆けてキャストによる演奏とトークを楽しめるコンサートも企画されている。

[日程] 11月19日

[会場] 長岡市立劇場

### ●富山県黒部市

黒部市芸術創造センター セレネ  
〒938-0282 黒部市宇奈月温泉6-3  
Tel. 0765-62-2000 中村・山谷  
<https://www.unazuki-selene.com/>

### 黒部峡谷 日本画展

「黒部峡谷の大自然を、絵画芸術を通して未来へ伝える」が基本理念のセレネ美術館では、この理念に賛同した7名の日本画家が黒部のさまざまな場所を取材して描いた作品の収集を開館当初より続けている。本展では、「平山郁夫 黒部を描く」「黒部峡谷 日本画展」「戸出喜信『黒部川』」の3つのコーナーに分けて展示。黒部峡谷の静かさや迫力を余すところなく感じられる。

[日程] 7月21日～10月22日

[会場] 黒部峡谷 セレネ美術館

### ●長野県松本市

松本市芸術文化振興財団  
〒390-0815 松本市深志3-10-1  
Tel. 0263-33-3800 一倉  
<https://www.mpac.jp/>

### まつもと市民芸術館プロデュース『ハイ・ライフ』

骨太で社会派な作品を多く上演する劇団チョコレートケーキの日澤雄介を演出に迎え、多数の賞を受賞し世界各国で上演され続けているカナダのリー・マクドゥーガル作『ハイ・ライフ』を制作する。キャストの東出昌大、尾上寛之、阿部亮平、小日向星一が、松本の地で稽古を重ねて繰り広げる、ならず者4人のスリングで緊張感あふれるやりとりが見どころ。12月1日～6日には東京公演(吉祥寺シアター)も行われる。

[日程] 11月23日～11月26日

[会場] まつもと市民芸術館

### ●長野県安曇野市

安曇野高橋節郎記念美術館  
〒399-8302 安曇野市穂高北穂高408-1  
Tel. 0263-81-3030 伊藤理恵子  
<http://azumino-bunka.com/facility/setsuro-museum/>

### 開館20周年記念特別展 —あなたの節郎—

高橋節郎は、現代的で芸術性豊かな独自の漆芸術の世界をつくり出し、黒と金を基調に、少年時代に親しんだ故郷安曇野の風景などを幻想的に表現した漆の芸術家。高橋の生家(国登録有形文化財)に建ち、今年で開館20周年となる本展では、普段見ることのできない《鸚鵡貝のある風景》(個人蔵)などの貴重な個人コレクションと、県下の公立美術館等に収蔵されている作品を紹介し、地域と共に歩んだ

歴史を振り返る。

[日程] 9月14日～12月10日

[会場] 安曇野高橋節郎記念美術館



高橋節郎《花と鳥》(個人蔵)

### ●岐阜県大垣市

大垣市サイトピアセンター  
〒503-0911 大垣市室本町5-51  
Tel. 0584-82-2310 村瀬・早崎  
<https://www.og-bunka.or.jp/>

### 土屋禮一展「有由有縁」

岐阜県養老町出身の日本画家・土屋禮一の地元大垣での11年ぶりの個展。タイトルの「有由有縁」は人との出会いや物事との関わりに偶然などなく、理由があって縁を結んでいるという意味。相次いで日展で発表した《青空騒ぐ(風神)》(2022)と《出現(雷神)》(2021)が初めて同時展示されるのをはじめ、タイトルどおりさまざまな縁から本展に集まった作品を、作者の言葉とともに紹介する。

[日程] 9月23日～11月26日

[会場] 大垣市サイトピアセンター

### ●静岡市

静岡県文化財団  
〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1  
Tel. 054-203-5714 小澤  
<https://www.granship.or.jp/>

### 本と音楽の素敵な出会い

### 『ラブカは静かに弓を持つ』

小説家の言葉と音楽家の奏でる音が響き合い、文学作品をより深く味わう演奏会「本と音楽の素敵な出会い」シリーズ。4回

目となる今回は、2023年本屋大賞第2位の音楽小説『ラブカは静かに弓を持つ』を題材に、著者の安壇美緒とチェリストの横坂源のクロス・トークと演奏をお届けする。作中に登場する楽曲も演奏され、ストーリーの鍵となるチェロの音色とともに作品の魅力に迫る。

[日程] 10月15日

[会場] 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

### ●静岡県富士市

富士市文化振興財団  
〒416-0953 富士市蓼原町1750  
Tel. 0545-60-2510 渡邊  
<https://rose-theatre.jp/>

### ロゼシアター市民創作ミュージカル『Dear...』

今年で開館30周年となる富士市文化会館(ロゼシアター)の市民創作ミュージカル。開館5周年を記念して制作された『新・曾我物語 名残りの小袖』以来、25年間継続されてきた事業であり、今回は、市民キャスト60人、スタッフ20人が参加。過去に上演した作品で使用した楽曲を取り入れるなど、会館の30年間と、ミュージカル25年間の思い出が詰まった作品となっている。

[日程] 10月28日、29日

[会場] 富士市文化会館(ロゼシアター)

### ●愛知県豊橋市

豊橋文化振興財団  
〒440-0887 豊橋市西小田原町123  
Tel. 0532-39-8810 伴・加賀  
<https://www.toyohashi-at.jp/>

### 高校生と創る演劇

### 『101年目の夏休み』

愛知県東三河地域に暮らす高校生と、劇場やプロのスタッフが共に創作する演劇公演の第10弾。青☆組の吉田小夏を作・演出に迎え、オーディションによ

## ▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

り選ばれた高校生がオリジナルの作品を上演する。合唱部を舞台に、亡くなったはずのひいおばあちゃんが高校生としてやり直す初恋の物語を、公募した高校生からのエピソードをちりばめながら描く。

[日程] 11月3日～5日

[会場] 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT

### 近畿

#### ●三重県津市

三重県文化会館

〒514-0061 津市一身田上津部田1234

Tel. 059-233-1122 笠井美瑠

<https://www.center-mie.or.jp/bunka/>

#### ワンコインコンサートvol.134

##### 尺八 黒田鈴尊

ランチタイムに1時間500円で気軽に楽しめるワンコインコンサート。2008年から開催しており、これまでにハープや津軽三味線、アコーディオンなどさまざまな演奏会を開催。10月公演は尺八演奏家・黒田鈴尊による、クラシック音楽やタンゴ、ジャズ、シャンソン、そして黒田の委託作品である現代音楽が登場。和洋の音楽ジャンルが交差するプログラムとなっている。

[日程] 10月12日

[会場] 三重県文化会館

#### ●滋賀県甲賀市

滋賀県立陶芸の森

〒529-1804 甲賀市信楽町勅旨2188-7

Tel. 0748-83-0909 三浦弘子

<https://www.sccp.jp/>

#### 特別展「岡本太郎 アートの夢—陶壁・陶板・21世紀のフィギュア造形」～大衆にじかにぶつかる芸術を～

「芸術の大衆化」をテーマに、パブリックアートや量産品のデザインを手掛けた岡本太郎らの作品を紹介。また新たに大衆が求

めたアートとも言えるアニメ・マンガのキャラクターを対象にしたフィギュア造形の世界、壁画の可能性も併せて取り上げ、太郎が目指したアートの大衆化と21世紀アートのこれからの探る。関連企画として出展作家によるカプセルトイ企画や出展作家と陶芸の森館長による「対話の森」を実施。

[日程] 7月15日～12月17日

[会場] 滋賀県立陶芸の森 陶芸館

#### ●大阪府東大阪市

東大阪市文化創造館

〒577-0034 東大阪市御厨南2-3-4

Tel. 06-4307-5772 八田祐薫

<https://higashiosaka.hall-info.jp/>

#### 第1回東大阪市オリジナル市民ミュージカル

##### 『100-ONE hundred』

館のミッションのひとつ「文化創造の機会の提供」を目指し、公募で集まった市民によるオリジナルミュージカルを初上演。下は小学生から上は80歳代まで幅広い年代の約60人が出演する。プロデューサー／企画・演出に阪本洋三(近畿大学教授、脚本に徳尾浩司(『おっさんずラブ』ほか)、音楽に宮川彬良と一流のクリエイターを招聘。東大阪のまちを市民と共にシナリオハンティングし、市内の名所・旧跡を舞台に展開する東大阪ならではの作品となっている。

[日程] 11月26日

[会場] 東大阪市文化創造館

Dream House 大ホール

#### ●神戸市

神戸市民文化振興財団

〒650-0017 神戸市中央区楠町4-2-2

Tel. 078-351-3535 岡野・熊井・土山

<https://www.kobe-bunka.jp/hall/>

#### 緑のテーブル2017～神戸文化ホール開館50周年記念Ver.～

『緑のテーブル2017』は、ドイツの振付家クルト・ヨースの『La Table Verte (緑のテーブル)』(1932)に想を得て、神戸を拠点とするダンスカンパニー、アンサンブル・ゾネ主宰の岡登志子の振付により新たに創作したコンテンポラリーダンス作品。それぞれのダンサーが演じる登場人物を通して、人間の普遍的な感情にふれることができる。今回は総勢50人の出演者と共に、特別バージョンでお届けする。

[日程] 10月21日

[会場] 神戸文化ホール

#### ●兵庫県多可町

多可町文化会館ベルディーホール

〒679-1113 多可郡多可町中区中村町135

Tel. 0795-32-1300 赤松康正

<https://verde.takacho.net/>

#### 日本酒の日コンサート

##### 「日本酒とジャズin多可町」

「山田錦発祥のまち」「日本酒で乾杯の町」をテーマに、シンガーソングライターの加藤登紀子を迎えて10月1日の「日本酒の日」に合わせて1992年から開催してきた「日本酒の日コンサート」。令和3年に惜しまれつつ30年のピリオドが打たれたが、昨年からは新しいスタート。椅子席に加えてテーブル席も用意され、多可町産山田錦を使った日本酒を味わいながらジャズをじっくり堪能できる。またホール入り口には、この日に合わせてつくられた大きな杉玉(酒林)が飾られる。

[日程] 10月1日

[会場] 多可町文化会館ベルディーホール

#### ●奈良県奈良市

奈良県立美術館

〒630-8213 奈良市登大路町10-6

Tel. 0742-23-3968 三浦敬任

<https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

#### 奈良県立美術館50周年記念特別展「仮面芸能の系譜 仮面芸能のふるさと奈良」

美術館の開館50周年を記念し、奈良に息づく仮面伝統文化を紹介する展覧会。日本の仮面の始まりと推察される縄文・弥生時代の土面から、歌舞伎や雅楽、猿楽、能楽を経て今に至るまでの歴史を辿るよう、国指定の重要文化財、県指定文化財を含む約140件が一堂に展示される。談山神社の翁面を代表とする仮面作品たちは、伝統芸能が続いてきた起源とされる人々の祈りを感じさせる。

[日程] 9月30日～11月12日

[会場] 奈良県立美術館



翁面(摩多羅神面) 談山神社所蔵

#### ●奈良県天理市

なら歴史芸術文化村

〒632-0032 天理市杣之内町437-3

Tel. 0743-86-4420

<https://www3.pref.nara.jp/bunkamura/>

#### 第3回企画展「すごいぞ!レプリカ～文化財を未来に伝える～」

奈良県を代表する仏像や絵画、考古遺物などのレプリカを一堂に展示。「ニセモノ」「コピー」「本物の代わり」など、マイナスイメージをもたれることもあるレプリカであるが、それぞれに文化財を保存し、未来に伝えるという大切な役割があることを紹介する。期間中は、展示に協力として関わった山田修氏(奈良県立大)によるトークイベントや、長谷寺本尊十一面観音菩薩像VR体験な

ど、関連イベントも開催。  
[日程]7月15日～10月15日  
[会場]なら歴史芸術文化村

●和歌山県和歌山市   
和歌山県立近代美術館  
〒640-8137 和歌山市吹上1-4-14  
Tel. 073-436-8690 宮本久宣  
<https://www.momaw.jp/>

**特別展**  
「原勝四郎展 南海の光を描く」  
現在の和歌山県田辺市に生まれた画家・原勝四郎(1886～1964)の大規模な回顧展を、半世紀ぶりに田辺市立美術館と共同で開催。和歌山県立近代美術館では原の画業を通観できる展示となっている。原が主に描いたのは、明るく美しい紀南の風景と、そこに暮らす妻と子と自分の姿、そしてバラの花を主とする静物などで、それらの生き生きとした作品のもつ力は、没後半世紀を経た今でも褪せず、見る者を魅了する。  
[日程]10月7日～12月3日  
[会場]和歌山県立近代美術館



原勝四郎《小湾》(1940年/和歌山県立近代美術館蔵)

## 中国・四国

●鳥取県境港市   
境港市文化振興財団  
〒684-0033 境港市上道町3000  
Tel. 0859-44-1000 阿部英治  
<https://minato-terrace.jp/>

**第1回境港市市民音楽祭**  
市民と演奏者が一堂に会し、演奏と鑑賞を同時に楽しめる市民すべての人に開かれた超参加型の音楽イベント。記念すべき第1

回となる今回は、市民公募により36組の団体・アーティストが参加。4日間通しのチケット料金はワンコイン(500円)で、クラシックや邦楽、軽音楽、ダンスなど、さまざまなジャンルのパフォーマンスを楽しめる。  
[日程]10月14日、15日、11月4日、5日  
[会場]境港市市民交流センター(みなとテラス)、境港市文化ホール(シンフォニーガーデン)

●島根県安来市   
安来市総合文化ホール アルテピア  
〒692-0014 安来市飯島町70  
Tel. 0854-21-0101 坂口寛  
<https://www.artepia.jp/index.php>

**あるてぴあ寄席 山中鹿介物語**  
戦国時代まで安来市に所在した尼子家の本拠・月山富田城と、尼子家に仕えた武将・山中鹿介にスポットを当てながら、安来の歴史を講演・講談・落語と3つの話で紹介する。講演では、テレビでもお馴染みの千田嘉博教授による月山富田城の歴史情報を紹介。講談、落語は本公演のために新たに創作された内容となっており、おもしろおかしく鹿介や安来の歴史を楽しむことができる。  
[日程]10月22日  
[会場]安来市総合文化ホールアルテピア

## 九州・沖縄

●北九州市   
北九州市芸術文化振興財団  
〒803-0812 北九州市小倉北区室町1-1-11  
Tel. 093-562-2655 大羽美菜子  
<http://q-geki.jp/>

**北九州芸術劇場クリエイションシリーズ「イエ系」**  
劇場とアーティストがタッグを組み、地域の人々や表現者との交流など時間をかけて「地域」を知

る1年目を経て、2年目に劇場オリジナル作品を創作するクリエイション・シリーズ。第2弾は、サンプルの松井周が北九州でつくる“未来の施設で量産される、疑似家族の物語”。「家族」という関係は何を隠し、何をさらしてしまうのか? 疑似家族だからこそその「家族」への願いを描く。11月4日、5日に東京芸術劇場でも上演。  
[日程]10月26日～29日  
[会場]J:COM北九州芸術劇場

●熊本県荒尾市   
荒尾総合文化センター  
〒864-0041 荒尾市荒尾4186-19  
Tel. 0968-66-4111 村上史子  
<https://www.city.arao.lg.jp/kurashi/shisetsu/bunka-center/>

**『コッペリア』～新たなるであい～**  
プロのダンサーやバレエスクールのダンサーのほか、公募で集まった4歳から60歳代までの幅広い年代の一般参加者や荒尾総合文化センター主催の子ども劇団「ステージ☆キッズ」より、総勢約80人が集結。バレエの名作『コッペリア』を物語の主軸としつつ、登場人物であるコッペリウスの若かりし頃をオリジナルサイドストーリーとして織り交ぜながら、バレエと演劇で綴る。  
[日程]10月28日  
[会場]荒尾総合文化センター

●大分県大分市   
大分県立美術館  
〒870-0036 大分市寿町2-1  
Tel. 097-533-4500 柴崎  
<https://www.opam.jp/>

**コレクション展Ⅲ「わたしが主役! OPAM秋の名品展」**  
大分県立美術館は大分県出身やゆかりの作家を中心とした約5,000点に上る美術作品や資料を収蔵し、年間を通してその魅力を発信している。今年の名

品展は秋の開催。「わたしが主役! OPAM秋の名品展」と題して、前半では「作品中の主役＝画題」に注目して、花卉鳥獣など人気の画題を描いた近世から近代の日本絵画を、後半では華やかな西洋絵画などOPAMコレクションの名品を紹介する。  
[日程]9月7日～11月12日  
[会場]大分県立美術館

●宮崎県宮崎市   
みやざきアートセンター  
〒880-0001 宮崎市橋通西3-3-27  
Tel. 0985-22-3115 松山真弓  
<https://miyazaki-ac.com/>

**Art Box #06「JAGDA宮崎 グラフィックデザイナーのお仕事わくわく! WORK展」**  
人と人を繋ぐ機会を提供し、アート作品に幅広くふれてもらう企画「Art Box」の第6弾。身近にありながら意外と知らないグラフィックデザインについての展覧会を、JAGDA(日本グラフィックデザイン協会)宮崎と共同で実施する。あらゆる分野に携わる県内在住のグラフィックデザイナーが手掛ける仕事(ロゴ・キャラクター・ポスター・パッケージ・映像・ウェブデザインなど)を展覧し、仕事内容を紹介するほか、ワークショップによるお仕事体験も開催される。  
[日程]9月23日～10月9日  
[会場]みやざきアートセンター

## クリスマス・新春企画 情報求む!

12月号(11月25日発行予定)では「クリスマス・新春企画」を中心にご紹介します。下記までぜひ情報をお寄せください。  
Tel. 03-5573-4093  
Fax. 03-5573-4060  
[letter@jafra.or.jp](mailto:letter@jafra.or.jp)  
締め切り:10月25日(水)

## ▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

### アーツセンター情報

#### ●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

#### ●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

#### ●情報提供先

地域創造レター担当  
Fax. 03-5573-4060  
Tel. 03-5573-4093  
letter@jafra.or.jp

#### ●北海道古平町

##### 複合施設かなえーる

〒046-0192 古平郡古平町大字浜町50

Tel. 0135-48-9835

<http://www.town.furubira.lg.jp/town/detail.php?id=281>

◎2022年5月6日オープン



旧役場庁舎と旧文化会館の両施設の機能を併せ持つ複合施設として集約化され開設。愛称の「かなえーる」(適える、叶える、CAN@YELL(できるを応援))をコンセプトに、まちなか再生の拠点施設として、図書館、地域交流センター、地域防災センター、庁舎の4つの用途で構成される。

町が令和2年2月に宣言したゼロカーボンシティの中心となる環境に配慮した施設として、各種の省エネ技術を取り入れることで、一般の建物に比べて一次エネルギー消費量を58%削減。新築公共建築物におけるZEB Ready認証を北海道内で初めて取得している。

地域交流センター内の大ホールや多目的室、視聴覚室、和室などは自由に仕切りを変えることができ、小グループの個別活動のほか、一体的に利用する等、目的に応じた使用が可能。

[施設概要] 図書館、役場、地域交流センター(大ホール:186.86m<sup>2</sup>、中ホール199.01m<sup>2</sup>、多目的室2室、調理実習室、視聴覚室2室、和室2室、創作活動室)、地域防災センター ほか

[設置・管理・運営者] 古平町  
[設計者] 大成建設株式会社一級建築士事務所

#### ●兵庫県伊丹市

##### 市立伊丹ミュージアム

〒664-0895 伊丹市宮ノ前2-5-20

Tel. 072-772-5959

<https://itami-im.jp/>

◎2022年4月22日グランドオープン



江戸時代の酒造りを伝える国指定重要文化財「旧岡田家住宅」をはじめ、市立美術館や市立工芸センター、柿衛文庫など文化施設が集まる文化ゾーンに市立博物館の機能を移転・統合し、「市立伊丹ミュージアム」としてオープン。通称「I/M(アイム)」は、「伊丹の」「私の」「みんなの」ミュージアムを意味する。既存施設を一部増築し、地域の歴史を紹介する常設展やものづくり工房のアトリエ、自由に俳句を創作できる俳諧・俳句ひろば、日本遺産に認定された伊丹の酒造りが学べる展示などを新たに設置。美術・工芸・俳諧・歴史の各分野に及ぶ幅広い世代が楽しめる展覧会や講座、イベントなどを数多く実施し、多彩な芸術文化を市内外に広く発信している。

[オープニング事業] 『『がまくんとかえるくん』誕生50周年記念アーノルド・ローベル展』ほか

[施設概要] 常設展示室、企画展示室5室、アトリエ、旧岡田家住宅、旧石橋家住宅ほか

[設置者] 伊丹市

[管理・運営者] 伊丹ミュージアム運営共同事業体

[設計者] 建築設計・監理: 坂倉・平田・新日本設計共同体 坂倉建築研究所/展示設計: 株式会社丹青社

#### ●高知県南国市

##### 南国市地域交流センター MIARE!

〒783-0004 南国市大桶甲2117

Tel. 088-878-6070

<https://www.city.nankoku.lg.jp/>

◎2022年4月1日オープン



老朽化した中央公民館、大篠公民館の代替施設として、多目的機能ホール・公民館・防災拠点の機能を併せ持つ複合施設として開館。「みんな、あつま、れ!」という意味が込められた愛称「MIARE!(みあーれ)」は公募により選出された。

地域住民の文化・芸術活動、生涯学習活動の拠点として、趣味のサークルからプロの演劇・コンサートまで、世代を超えた市民交流によるまちの活性化を担う施設。現在、約40のサークルが活動している。

ホールは、客席を収納することで展示会や簡易なアクティビティと多目的に活用でき、壁の一部を開くことで、交流ロビーと一体とした利用も可能。エントランス前のピロティは、雨天時でも利用可能な防災広場、ホールは避難者の居住スペース(最大260人収容)となるなど、防災施設としての機能を兼ね備えている。

[施設概要] ホール(500席)、交流ロビー(145m<sup>2</sup>)、多目的室1・2(計228m<sup>2</sup>)、調理室(80m<sup>2</sup>)、会議室A・B、和室1・2、サロン1・2、ギャラリー ほか

[設置・管理・運営者] 南国市  
[設計者] 昭和・ハウジング総合設計共同企業体

## ▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

### 福井県大野市

### COCONOアートプレイス ウィギーカンパニー 版画展 「DAPPI(脱皮)」



上: COCONOアートプレイス外観。グッドデザイン賞など数々の賞を受賞した  
中: 地域の人々と賑わう「くつろぎスペース」  
下: ハナレギャラリーで展示されたウィギーカンパニーの作品

●ウィギーカンパニー版画展「DAPPI(脱皮)」  
[主催]大野市  
[会期]2023年7月15日～9月18日  
[会場]COCONOアートプレイス

#### \*小コレクター運動

市民が無名の若手アーティストの作品を購入して活動を支える活動。1950年代から大野市や隣接する勝山市など福井県で盛んに行われた。戦後日本の美術教育界で起こった「創造美育運動」(美術評論家の久保貞次郎が提唱した「美術を通して子どもの想像力を健全に育てる」運動)が発端。3点以上の収集で小コレクターと呼ばれるが、大野には数百点を所蔵するコレクターもいる。フォトコラージュで知られる瑛九の油彩画や、草間彌生のカラフルなカボチャの版画、虹を描く以前の鬚嘔の作品など貴重な作品も多い。鬚嘔は幾度も大野市を訪れ、電話ボックスに本物の絵を展示する活動のための作品も制作。また、リサブローは大野の未来をモチーフにした作品を寄贈するなど、市民とアーティストが深く交流している。

福井県の北東に位置し、山々に四方を囲まれた大野市(人口3万人余り)。2018年、城下町の面影が残る旧市街地に開館したアートギャラリー「COCONOアートプレイス」が5周年を迎えた。

建物は、市に寄贈された築120年を超えた木造古民家。開口部を大きくとって街に開かれるように改装され、蔵・ハナレ・母家の一部を使った3つのギャラリー、床の間のある座敷を活かしたコミュニティスペース、中庭、2階まで吹き抜けにした入り口の土間のショップと建物のもつ重厚さと機能性が見事に調和した佇まいになっていた。

名称のCOCONOとは、「COLLECTOR(コレクター)」と「COMMUNITY(コミュニティ)」の2つのCOと大野「ONO」を連ねた造語だ。コンセプトに「古いものを守り生かしながら、新しいものも取り入れ果敢に挑戦する」を掲げ、一説には市内に1万点あるという市民コレクターが所有する現代アート作品の展示と、福井県ゆかりの若手アーティストの紹介を基軸に、年4回ほどの自主企画展を開催している。



8月20日、取材に行き行って驚いた。市民の収集作品を常設展示しているオモヤギャラリーには、虹のアーティストとして国際的に活躍する鬚嘔、後年はニューヨークで活動したキムラリサブローをはじめ、瑛九、池田満寿夫、北川民次、オノサト・トシノブら海外でも評価の高い現代アーティストたちの作品がずらりと並んでいたのだ。制作年は彼らが無名の若手であった1950年代からのもので、小品ながら実験精神に富んだ若々しい表現に見入ってしまった。

「大野市では1950年代から才能がありながらも不遇な若いアーティストの作品を市民が購入して支援する『小コレクター運動』<sup>(\*)</sup>が盛んでした。大野市出身のアーティストはいませんが、支えてもらったアーティストたちは皆さん市民と親しく交流していました」と、COCONOアートプレイスの運営を担当する大野市地域づくり部地域文化課の伊藤富美さんと南川麻衣さんは語る。子どもの美術教育への関心から始まっ

たこの運動の中心メンバーのひとりが大野市の美術教師・堀栄治さんで、瑛九など不遇だが才能のある作家の推薦を受けながら多くの人に購入を勧めていった。その結果、大野市では小学校や幼稚園、市役所から蕎麦屋までごく当たり前に現代アート作品が飾られている。こうした小コレクター運動を大野市の文化として捉え、市民の収集作品を広く紹介する施設として設置されたのがCOCONOアートプレイスであり、伊藤さんたちは展示の度に所有者を訪ね、出展を依頼。年1回はコレクターにスポットを当てた個人コレクション展も開催している。

一方、蔵ギャラリーとハナレギャラリーでは福井市在住の図案家・版画家であるウィギーカンパニーの個展「ウィギーカンパニー版画展『DAPPI(脱皮)』」が開催されていた。天井高のある蔵には映像作品と掛け軸風に設けた版画、ハナレにはカラフルな版画作品が展示されていた。ウィギーさんは、「先輩方の素晴らしい作品がある場所での展示はプレッシャーもありましたが、新しいことに挑戦できる機会にもなりました。年配の方が散歩ついでに立ち寄ってくださったり、生活の中でアートを楽しむ土壤があると実感しました」と言う。会場には親子連れも多く、関連イベントのダンスパフォーマンスを鑑賞したり、座敷でお喋りしたり、それぞれが家で寛ぐように時間を過ごしていた。

大野市のまちなかを歩くと、市民団体である「おさんぼアートミュージアム大野」の企画で、ウインドウや空き店舗に小コレクターの収集作品が展示されていた。道端で「うちにも作品がありますよ」と声をかけてくる人もいほど、現代アートが生活に浸透していた。「大野の人たちにとっては当たり前すぎることで、かえってその価値を再認識してもらうのに苦労しています」と伊藤さん。

個人所有という壁があり、大野市の小コレクター運動の実像を把握するのは難しいところがあるが、代替わりしてコレクションが散逸する前にこの稀有なアーティストと市民の関係が記録され、後世に伝えられていくことを願っている。(アートジャーナリスト・山下里加)